

第十二回 神恩感謝

日本太鼓祭

- 大分 豊の国 ゆふいん源流太鼓
- 岡山 備中温羅太鼓
- 兵庫 TA・KU・MI
- 愛知 志多ら
- 石川 御陣乗太鼓保存会
- 石川 和太鼓サスケ
- 新潟 鼓童
- 長野 和力
- 東京 英哲風雲の会
- 東京 八丈太鼓の会
- 三重 熊野鬼城太鼓
- 三重 神恩太鼓

奉納演奏会場

おかげ横丁太鼓櫓
 五十鈴川河川敷特設舞台
 五十鈴川野遊びどころ中庭

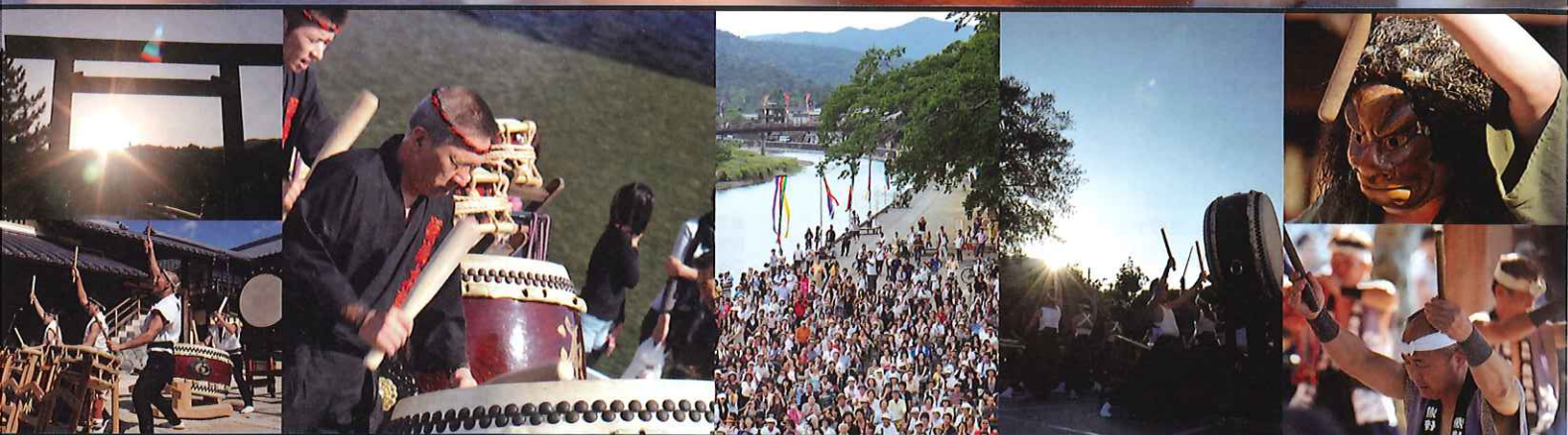
2014
11/8土・9日

10:00~17:00 入場無料

※雨天及び諸事情により、内容が一部変更または中止になる場合がございます。



総合案内 電話 0596(23)8838
 〒516-8558 三重県伊勢市宇治中之切町52
<http://www.okageyokocho.co.jp/>



■主催：神恩感謝日本太鼓祭実行委員会 ■協力：(財)浅野太鼓文化研究所 ■協賛：(株)赤福、(有)伊勢福 ■後援：三重県、伊勢市、伊勢市教育委員会、(社)伊勢市観光協会、NPO法人五十鈴塾、伊勢おはらい町会議、近畿日本鉄道(株)、三重テレビ放送(株)、三重交通(株)、(株)ぎゅーとら

日本太鼓祭

奉納演奏 出演者プロフィール

豊の国 ゆふいん源流太鼓 (とよのくに ゆふいんげんりゅうだいこ) 【大分】
由布岳の山境、塚原峠から由布院盆地へと、響き渡るリズムや舞がある。町の中心部にある金鱗湖から湧き出た温泉が源流となって、小川、やがて大河となるよう、日本、そして世界へ故郷の音として響かせてゆく。一打で大地を激震させ、一打に人生のすべてをかける。鍛え上げられた心と肉体で男たちの魂のリズムを表現している。

備中温羅太鼓 (びちゅううらだいこ) 【岡山】
昭和51年、岡山県総社市に古くから伝わる「温羅伝説」に因んで結成。地元総社に魅力ある郷土芸能を育て、地域へ定着させるとともに、地方から全国への文化の発信を目指して活動を続けている。総社市はもちろん、県内外、海外へと活動の場を広げ、通算公演回数は1,000回を超えている。近年は、既成の概念に囚われない曲作りや異種ジャンルとのコラボレーションなど、和太鼓の新たな可能性を見出すべく新境地の開拓を行っている。

TA・KU・MI (たくみ) 【兵庫】
佐渡ヶ島に大学を設立しよう!!と創設された佐渡乃国「鬼太鼓座(オンデコザ)」に参加。精神性、肉体的、音楽性の三位一体をめざして、笛、太鼓、踊り、走る事などを学びました。舞台ではフルマラソン2時間30分台の走力を買われ主に笛を担当。太鼓は人と人とのアンサンブルでより響くもの、地をほう低音は生きる活力を、空を裂く高音は夢と希望を人々に与えてくれるものと信じて演奏を続けています。「いつ、どこでも、だれとでも」という太鼓・笛の即興演奏が十八番です。

志多ら (したら) 【愛知】
結成25年、愛知県奥三河を拠点として活動する和太鼓集団。現在、自然と人との共生をテーマにした舞台作品、「蒼の大地〜今、ひとつになりて行かん〜」を全国50ヶ所で展開中。730年伝わる国の重要無形民族文化財花祭など、伝統芸能に触れて暮らし、その風土を作品の世界観に取り入れた創作活動を行う。「人を結び、いのち奏で伝統を舞う」をテーマに、和太鼓を通じて心のつながりを大切に活動をする。

御陣乗太鼓 (ごじんじょうだいこ) 【石川】
輪島市名舟町に古くから伝わる太鼓で、天正5年(1577年)、上杉謙信の能登攻略のとき、古老の一計で、奇妙な面を被り、陣太鼓を打ち鳴らし上杉軍に奇襲をかけた敗走させたのが始まりといわれる。昭和36年に輪島市指定文化財に、昭和38年には石川県無形文化財に指定される。また、御陣乗太鼓は打ち手だけのものではなく、名舟町全体のものであり、その伝承は地元生まれの者に限られている。

和太鼓サスケ (わだいきさすけ) 【石川】
石川県白山市内外を中心とする小中高生により結成。現在は小学生から20代のメンバーで活動する若手チーム。ひとりひとりが全身で音を表現すること、イキイキと歯切れ良く太鼓本来の音を追求めし全員で心を合わせ、快活なリズムを生み出すことを目指している。

鼓童 (こどう) 【新潟】
太鼓を中心とした伝統的な音楽芸能に無限の可能性を見だし、現代への再創造を試みる集団。「鼓童」とは、人間にとって基本的なリズムである心臓の鼓動から音(おん)をとった名前、大太鼓の響きが母親の胎内で聞いた最初の音をイメージしています。そして「童(わらべ)」の文字には、子どものように何ものにもとられることなく無心に太鼓を叩いていきたいという願いが込められています。1981年、ベルリン芸術祭でデビュー、多様な文化や生き方が響き合う「ひとつの地球」を目指し、「ワン・アース・ツアー」というタイトルで世界各地をめくり、これまでに46ヶ国で3,700回を超える公演を行っています。

和力 (わりき) 【長野】
2001年、主宰の加藤木朗、音楽監督の木村俊介により活動を開始する。2005年、津軽三味線の小野越郎が加わり現在の形態となる。伝統的な演奏法や音律、地域独特の様式美をモチーフにして新しい舞台表現を追求している。'06年イギリス「ホワイトホール」(文化庁後援)、「大英博物館」、イタリア「ピッティ宮殿」(世界遺産)等で出演。'08年アメリカ(N.Y/LA)公演。'09韓国「国立民族博物館」にて公演。'10年スロベニア・セルビア・モンテネグロ公演。'11年セルビア・ボスニア ヘルツェゴビナ・アルバニア、コソボ4ヶ国公演。'12年セルビア・ボスニアヘルツェゴビナ・スロベニア・アルバニア、コソボ5ヶ国公演。'13年ブラジル公演。

英哲風雲の会 (えいてつふううんのかい) 【東京】
日本各地でソロ活動や独自の活動をしている若手太鼓演奏者の中から、林英哲の音楽に共鳴する実力者が揃う太鼓ユニット(林英哲・主宰)。1995年、林英哲作曲の大太鼓合奏曲『七星』の演奏のために結成。その後、林英哲コンサートのアンサンブルメンバーとして国内ツアーはもとより海外公演でも活動する他、2007年林英哲ソロ活動25周年記念公演では初のオーケストラとの競演、その後もドイツ、オーストリアなど海外でも林英哲とともにオーケストラと競演している。2005年より「英哲風雲の会」として独自の演奏活動も行う、いずれも次世代を担う俊英たちである。今回参加するのは東京を中心に活動する上田秀一郎、田代誠、辻祐と三重を中心に活躍している服部博之の4名です。

八丈太鼓の会 (はちじょうたいこのかい) 【東京】
昔、刀を失った流人が、その鬱憤を晴らすべく二本のバチに託して打ち鳴らし始めたときとされる。二人による両面打ちが織りなす独自のリズムは軽やかで、また、打ち手の、日によって変わる気分を雄弁に語る。太鼓の音に合わせて唄う太鼓節は東京都の無形文化財に指定されている。

熊野鬼城太鼓 (くまのきじょうだいこ) 【三重】
紀州熊野の荒々しくも美しい自然、温かい風土に育まれてきた文化や文芸、昔から語り継がれてきた民話の数々を和太鼓の力強いサウンドにのせて、広く多くの人の心にアピールしたいという志のもと昭和63年に結成。以来、形式にとらわれない独自のスタイルの和太鼓作りに励み、観てよし、聞いてよし、人の心に響く音を求め、舞台上上がっている。

神恩太鼓 (しんおんだいこ) 【三重】
1992年、伊勢神宮内宮前おかげ横丁の誕生とともに結成。今回は二次編成チーム。伊勢の風土をいっぱい感じながら、おかげ横丁の基本精神「神恩感謝」を太鼓の音で表現すべく演奏している。

音の体験教室『ミニ太鼓作り』

オリジナル太鼓を作っていただける体験教室です。ケヤキの胴に革を張る、ミニ太鼓とは思えない本格派の太鼓です。

- 時間: 12:30~14:00(所要時間約90分)
- 場所: おかげ横丁「特設会場」
- 費用: 有料(両日とも先着20名)
- 受付: 当日10:00より受付
- 協力: (株)浅野太鼓楽器店

お祭り・どんどん屋台

太鼓を中心とした鳴り物玩具、法被や足袋、手拭いなど、祭り関連グッズ、衣装、季節の食べ物などが所狭しと並びます。

- 時間: 10:00~17:00
- 場所: おかげ横丁内特設屋台



■開催場所のおかげ横丁とは？

伊勢神宮内宮前町の真ん中にある「おかげ横丁」。老舗の味、名産、歴史、風習、人情など、この土地の魅力が約50ものお店に凝縮されています。一年を通して、伊勢地方ならではの、また季節の移り変わりを楽しめる「まつり」や「市」も開催しています。

■交通のご案内

【公共交通機関で】 近鉄名古屋から近鉄特急で約85分「宇治山田駅」下車。大阪難波から近鉄特急で約110分「宇治山田駅」下車。駅前から三重交通「内宮前」行きバス約20分、「神宮会館前」下車、徒歩1分。

【車で】 伊勢自動車道「伊勢IC」から、国道23号を内宮方面に直進「市営駐車場」着(約5分)、徒歩約5分。